

地域づくり表彰

一般社団法人 高根コミュニティラボ わあら (新潟県村上市)

掛け算で行う仕組みで未来を創る

－ 多様な関わりの拠点づくり －

一般社団法人
高根コミュニティラボ
わあら

代表理事

とよやま しんじ
遠山 真治



1. 村上市の概要

新潟県村上市は、新潟県の最北部に位置し、新潟県の 9.3% を占める 1,174k m² という広大な面積を有しています。

海岸線は約 50k m に及び、国名勝「笹川流れ」や「瀬波温泉」など、日本海が作り出す美しい景観を見るため、多くの観光客が来訪します。



国の名勝天然記念物「笹川流れ」

また、磐梯朝日国立公園の美しいブナの原生林をはじめ、広大な森林が広がっており、豊富な森林資源とこの森を源とした三面川や荒川の清涼な河川が岩船産コシヒカリなどをはじめとする高品質な農産物と水産資源を育てています。

市の本庁舎がある中心市街地は、城下町の面影を色濃く残し、町屋づくりの民家や商家があるほか、黒堀通りなど昔ながらの面影を残した場所が数多く見られ、当時の風情と歴史文化を今に伝えています。



家々の軒に下げられた塩引き鮭

村上藩の武士、青砥武平治が鮭の母川回帰の習性に着目して三面川を整備。鮭の自然ふ化増殖を日本で初めて行ったこともあり、鮭は村上市民の生

活に欠かせないものとなっています。このため、塩引き鮭などをはじめ、独自の鮭料理が発展し、村上市は「鮭のまち」と言われています。

このほか、岩船港など県内有数の漁港があることから海産物も豊かであり、海、山、川、大地の恵みを活かした食材の宝庫となっています。

2. 活動開始の背景・経緯

「わあら」が拠点とする高根集落は、朝日連峰麓の広大な森の中にある約 160 戸の小さな集落です。市街地から車で 30 分、高根川の最上流域の集落で 590 人ほどが暮らしています。日本の滝 100 選の鈴ヶ滝など美しい自然が織りなす環境の中、古くから多くの方が林業と農業に携わってきました。高根集落は、伝統行事や四季の暮らしを活かした交流イベントなどを盛んに行ってきた集落です。20 年以上前から高根の活性化事業に取り組む「高根フロンティアクラブ」が廃校舎を利用した食堂や企業の社会貢献活動受入、地域外への情報発信を行い、年間交流人口 6,000 人の賑やかな集落を作ってきました。



四方を山々に囲まれた高根集落

しかし、少子高齢化や集落中心部の空き家問題など、新たな課題が増え、もう 20 年経つと高根の姿が大きく変わってしまうことに気付き、危機感を抱いていました。そこで、将来を担う若者が地域で活躍し、自らの手で未来を創る事業に取り組んでいこうと 40 代以下の世代を中心に一般社団法人

「高根コミュニティラボわあら」を設立。「わあら」とは、高根弁で「わたしたち」という意味です。高根にある豊かな自然を活かした暮らしを未来へ繋ぎながら、高根に暮らす私たち、そして高根に関わる人たちがイキイキと、笑顔で楽しく過ごしていくことを目指して、ワクワクできる活動を実施しています。

最初の活動は、集落中心部に増えつつある空き家の活用と、高齢者などが気軽に集うことのできる場を作りたいとの思いを組み合わせ、集落有志と地域外からのボランティアで空き家をリノベーションし、市から介護予防事業を受託。高齢者の集いの場「いっぷくどころ」を開き、「拠点」づくりを進めていきました。



拠点の古民家「ゲストハウス瑞泉閣」

3. 拠点の掛け算【多世代・多地域】

子どもからお年寄りまで高根住民が集う場を設けたことに加え、「ゲストハウス瑞泉閣」として宿泊業の許可を取得。高根のイベントなどを通して来訪する観光客や学生などが宿泊して滞在しながら高根暮らしを体験できる拠点としました。その結果、学生や宿泊客が「いっぷくどころ」に参加したり、集落のイベントにスタッフとして関わったりするなど、様々な人が自分の得意な分野で集落づくりに関係する機会が増えていきました。

夏休みにはゲストハウスに来た大学生を講師として、子どもたちの宿題の勉強会や地域学習、遊びの場も実施。関わりの深まった宿泊客も加わって、集落の若者と知恵を出し合い集落の

イベントを考えるなど、拠点の掛け算をしたことで宿泊者と集落の人々との距離が近づき、多世代・多地域の様々な人が関わる場(拠点)の形成につながりました。



夏休みの学びの場「高根夏ゼミ」

4. 地域にあるもので地域のために

わあらの取り組みは、全て高根集落内で行われ、集落の暮らしに資することを基本としています。介護予防事業では、参加者が集落内の食堂 IRORI に食材として出す山菜の下処理をしながらおしゃべりしたり、お年寄りが料理を持ち寄ってランチ会をしたりと、楽しみながら介護予防と見守りを行っています。

子どもたちやゲストハウスの宿泊者もこの事業に参加し、お年寄りから高根の生活や風習などを聞いて、山里の歴史や暮らしの知恵、自然の営みを深く学べる地域伝統継承の機会ともなっています。また、こうした活動は集落内の若者の意識を高め、地域内の様々な取り組みの発生につながっています。



高齢者が集う「いっぴくどころ」

「居酒屋プロジェクト」では、町まで遠くて気軽に行けない「居酒屋」を作ろうと若者のアイデアを活かしながら雰囲気づくりを行い、地元食材を提供する集落住民の交流の場を作り出しました。



家族で参加できるお洒落な居酒屋

また、クリスマスイベントでは、地域内外の若者がサンタクロースに扮し、全世帯にクリスマスプレゼントを配布しました。その機会を利用し、世帯状況の把握や高齢者見守り、子育て支援、婚活的要素など、様々な目的を掛け合わせながら、事業の意義や効果を高めることに努めました。



単身高齢者世帯に若者サンタ訪問

5. 誰もが活躍できる場の創出

忙しい若者も自分のできる範囲で活動し、小さな力を大きな動きへと変えていく工夫を凝らしています。また、「よそ者」が集落の人と関わり、絆を強め、何度も高根を訪れるようになる関係づくりを「ゲストハウス瑞泉閣」＝「小さな拠点」が担っています。本来はお客様であるはずの人が、地域住民とともに汗を流し、語らい、その土地の人や生活の知恵を知り、集落の暮らしに理解を深めます。そして、集落の若者と共に高根の未来を考え、多様な視点から新たな事業が生まれています。この小さな拠点を核として、よそ者と住民、若者、高齢者、子どもたちなどが関わりを創り合い、交流を深めながら集落の元気づくりを進めています。



ハロウィンで子どもが高齢者訪問

6. 成果

ゲストハウスを整備したことで、地域外から定期的に来訪する若者が増えました。高根とのつなぎ役(コーディネーター)を集落の若者が担う場面も増え、若者が主体的に活動し、様々な取り組みに挑戦。これが人材育成につながっています。こうした集落内外の若い世代の活躍を盛り立て、継続的

に関わる場を設けていくことが、地域の活性化や課題の克服につながっています。



若者も楽しみながら地域貢献

また、子どもたちの職業体験や子ども発案イベントの実施を通して、子どもたちが集落内食堂の手伝いや、来訪者のガイド役を担う等、自主性が芽生えてきました。地域で子どもたちを育て、高根の魅力を体感しながら地域の一員としての役割意識や郷土愛を醸成する一助となっています。



職場体験を通じた世代間交流

7. 課題と展望

高根集落も若い世代が輩出し、少子高齢化が進んでいます。空き家の増加や耕作放棄地の増加、山林の管理、共有地の草刈り、冬の雪下ろしなど、数々の担い手不足の問題が山積しているのが事実です。しかし、今ある資源と人材の力を効率よく最大化しながら、地域の未来を意識し、様々な目的を掛け算することで、地域の新たな可能性が生まれると考えています。地域外の人材は、準村民「たかねびと」となり、高根に来られずともオンライン上に生まれる“拠点”を用いて共に高根の未来を支える大切な存在となります。居住地、年齢、立場など様々な枠を超え、誰もが居心地のよい多様な「関わり」の拠点を創ることにより、それぞれの得意分野を活かし、高根での挑戦、活躍の機会が生まれます。それが生きがいや自分らしい生き方の発見につながり、人が輝く集落の未来へと繋がっていくと信じ、今後もワクワクする活動を続けていきます。